

I 実践

1 研究主題

自他の立場や気持ちを考え、思いやりの心を育てる人権教育

(1) 主題設定の理由

本校は、『自ら学び 心身ともにたくましく 心豊かな児童の育成』を教育目標として掲げている。それを受けて人権教育では、「自他を尊重し、お互いのよさを認め合い、協力して活動できる態度を育てる」ことを目標の一つにしている。

そこで、児童一人一人がいろいろな人とふれあい、直接的に体験する活動を通して、自分や他の人々の気持ちを考え、一人一人がかけがえのない存在であり、お互いに尊重しあうことが大切であると理解することを目指し、そこから思いやりの心が育てられるように本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 豊かな体験活動

異学年交流・幼小交流・地域社会との交流・居住地校交流・福祉体験

イ 人権に関する作品の応募

人権書道・人権啓発ポスター・人権メッセージ

2 実践内容

(1) 異学年交流（縦割り班活動）

「異学年の仲間と関わりながら、コミュニケーションを図り、思いやりや社会性を身につけること」や、「仲間づくりのできるリーダーの育成を図ること」等をねらいとして、水曜日のロングの昼休みを利用しながら縦割り班遊びを実施している。

遊びの種類は、ボール遊び・なわ遊び・鬼遊びの3種類で、班長と6年生を中心にグループごとに詳しい計画をたてて実施している。また、校庭を全校児童で使えるように、計画的に遊びや場所をローテーションしながら行っている。



(2) 居住地校交流

「様々な交流学习を通して、互いに認め合い、ともに生きていく態度を養うと共に、社会性を伸長すること」や、「同じ居住地の同年代の児童と一緒に学習する機会を設け、障害や個性に対する理解を深めること」などを目的として実施している。

今年度は、以下のように行った。

期日	活動内容
10月24日（木）	・授業への参加・交流
11月14日（木）	・給食交流
配慮事項：安全面に配慮しながら、なるべく児童同士が自主的に交流できるように支援する。	

(3) 人権メッセージ

2学期のはじめに、全児童に呼びかけて実施した。1年生から6年生まで全クラスで取り組み、全部で324点の作品があがった。今回、ビデオ等の視聴は行わずに実施したが、相手を思いやること、辛いときに勇気づけられたこと、いじめについて考えたことなど、子どもたちなりの視点でメッセージを考えていた。提出した作品は、校内の人権コーナーに掲示したところ、帰りがけなど、子どもたちが興味をもって作品を見ていた。この活動を通して、人権意識を高めることができた。

(4) その他の体験活動の様子



【職場体験学習】



【外部講師の方との交流】



【福祉体験学習】

3 研究の成果

- (1) 異学年交流活動により、高学年は低学年の面倒をよくみたり、思いやりをもって優しく声をかけたりする姿がみられるようになった。また、グループでの遊びを決める話し合い活動では、低学年の児童も意見を出したり挙手をしたりして自己決定する姿が見られた。様々な人との関わりを通して自己肯定感も高まり、更なる活動意欲にもつながった。
- (2) 障害のある児童と一緒に活動することにより、多くの学びがあった。障害に対する理解を深めるとともに、思いやりや助け合いの気持ちをもって接する姿も見られた。
- (3) 人権メッセージの呼びかけを通して、道徳や学級活動、総合的な学習の時間において、人権について考える機会が設けられた。普段なかなかじっくりと考えることがないテーマではあったが、子どもたちなりによく考えたものが書かれていた。家庭に持ち帰って保護者と一緒に考えた児童もあり、家族で人権について考えるよい機会ともなった。

II 今後の課題

人権教育は一度だけの活動にとどまらず、継続して行っていくことが大切になってくる。今後も、学校教育活動全体を通して人権教育を推進し、児童一人一人の人権に対する意識を高めていきたい。また、人権コーナーの充実を図り、人権メッセージを掲示するだけでなく、地域の人々との連携の様子を知らせ、児童の経験や思いを広げる場としても活用していきたい。

III 人権コーナー設置の様子

